

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673000156
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
所在地	鹿児島県日置市伊集院町徳重三丁目3番地14 (電話) 099-273-8787
自己評価作成日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者が安心して穏やかな毎日が過ごせるように、また地域の方々が入居したいと思えるような施設作りを心がけています。
- ・医療連携の強化を図り、入居者様の健康管理を24時間体制で見守っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体が医療法人であり、24時間医療連携体制が整っており、緊急マニュアルを作成し主治医と連絡が取れる体制がある。通院のリハビリ支援も行っている。
- ・自治会に加入し地域の行事や奉仕作業に参加し、定期的なボランティアの訪問もある。中学生の職場体験や高校生の実習等受け入れている。日常は近隣の方とのあいさつや会話・夕涼み会等、地域の一員として触れ合っている。
- ・食生活が充実している。食べることが楽しみになるよう行事食やおやつなども工夫している。摂取量が少ない利用者には補食の気配りがある。そうめん流しに法人のリフト車で全員で出かけ、楽しんでいる。
- ・利用者の一人ひとりをよく把握し、役割を持ち楽しみのある暮らしを支援している。ぬり絵・洗濯物たたみ・ボール遊び・歌の合唱等をして、元気に暮らしている。
- ・毎月の法人の勉強会には全職員出席しており、ユニット毎の勉強会や法人内外の研修会の参加等、職員の資格取得に向けた支援に協力的である。資質の向上を図っている。職員間、利用者とのコミュニケーションが良好で運営に反映している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心できる暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を理念の柱とし、毎朝の申し送り時に理念の唱和をし、全職員の意識を高めるようにする。	一度見直しした地域密着型の理念がある。玄関・ホール・居室に掲示し重要事項説明書にも掲載している。毎朝、申し送り時に唱和して意識を高めて共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から近所の方々と挨拶を交わし開放的な雰囲気作りに努め、地域の行事への積極的な参加や、自治会に加入して奉仕作業等への参加をしている。	自治会に加入して、回覧板で情報を得たり、散歩の時はあいさつを交わしている。地域の運動会・六月灯の見物や奉仕作業に参加して交流している。中学生の職場体験学習や高校生の実習も受け入れたり、定期的に音楽のボランティアの訪問もある。地域住民の相談や見学にも対応して日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	実習生の受け入れを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催している。家族代表、自治会代表及び行政の方々の参加を得ている。日々の活動状況、事故の報告等を行い、意見を求め、サービスの向上活かすように努めている	定期的に会議を開催し、事業所の状況や行事・ヒヤリハット・外部評価の結果報告等を行っている。健康だよりを使って勉強を行ったりしている。研修会に参加した職員の報告も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員活動を利用して、日頃言えない、言わない思いを理解し、家族と連携をとり、本人の希望が叶うように努める。	市の担当者とは電話や窓口に出かけ相談やアドバイスを受けている。福祉関係の担当者とも連携を密にしている。運営推進会議では取り組みを伝え情報交換や助言等もらって運営に活かしている。介護相談員も受け入れている。市主催の研修会には積極的に参加して、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	知識を学び職員の共有認識を図っている。また、ケアを振り返り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成している。身体拘束委員会があり、月1回の職員会議でマニュアルに沿って、拘束の具体的事例を挙げて言葉の拘束も含め、研修している。日中は玄関の施錠はしていない。玄関にセンサーを使用し家族にも同意してもらっている。外出したい時は、職員と連携をとり、一緒に話をしたり、散歩をして拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況についての気付き観察を行い報告及び連絡をする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護等の勉強会に参加し、認識を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	基本的な理念や利用時の説明を充分に行うことで、家族や利用者の不安・疑問を和らげ、状況に応じて説明を繰り返すことで理解・納得していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とは話す機会を積極的に持つようになっている。また、利用者の行動・表情から思いを察して、日々のケアに活かせるように努めている。家族については、面会時に気軽に会話、相談が出来る雰囲気作りに努めている。	本人からは日常のケアの中で要望・意見を聞くように努めている。家族からは面会や行事の時、機会を捉えて把握している。家族が話易い雰囲気づくりに努め、意見や要望は記録して運営に反映させている。家族より「できることは自分でさせてほしい」との要望があり、茶碗洗いや洗濯たたみ等、個々の力量に応じて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月第一金曜日、スタッフ会議を開催し、また日々の申し送りを利用してスタッフからの意見を聞き、検討・改善に努めている。</p>	<p>毎日の申し送りの時や、毎月のスタッフ会議や随時、意見や提案を聞くようにしている。個人面談にも対応している。意見や要望は多く、利用者の食事形態のこと、オムツの使い方、備品の購入、勤務の事、等ある。出された意見は話し合い検討して、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格所得に向けた支援を積極的に行っている。所得後は、手当として給与等に反映するだけでなく、本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働条件作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を積極的に受けられるよう機会の確保に努め、職員一人ひとりの資質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者がスムーズに相談が出来るようにスタッフ（援助者）を配置し、利用者の小さな変化を見逃さないように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談を受け止め、アドバイスが出来るように環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの意向だけでなく、必要に応じてサービス利用機関や行政とも連携をとりながら慎重に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者から教わることもある。また、そういう場面を多く持つようにこえ掛けなどに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の身体状況についての気付き観察を行い報告及び連絡をする。日常の様子について家族との情報交換を行い、情報の共有に努め理解し合いながら、本人にとってより良いケアが出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた友人や知人との交流が絶えることの無いように家族に協力してもらいながら支援に努めている。地域のイベント・行事に参加して知人と会える機会を持つようにしている。	馴染みの人や場の関係が、途切れないように、家族や関係者に協力を貰いながら支援している。馴染みの友人の訪問や祭りや初詣等、行事の時の外出などで出合い交流している。外食や外泊にも対応し、馴染みの関係継続に努めている。美容室利用は、訪問や家族が同行している。友人・知人が訪ねてくる。部屋でお茶を飲んでもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の間に入り関係を把握して、お互いが良い関係を築けるように、こえ掛けや支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族や利用者の相談や支援が出来るような関係を保つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、声掛けや把握に努めている。言葉や表情などからその意思を推しはかたり、確認している。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族・関係者からの情報収集に努めている。	日々のケアの中で、表情やしぐさ・会話の中で思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や関係者から話を聞いたり、文字版を利用して対応し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの語りや家族・知人等の訪問時の会話から把握するように努めている。把握できた事柄に関しては記録に残し、情報を他の職員と共用しケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利湯者一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、スタッフ間で意見交換を行い、計画に反映させている。期間や本人の状態に応じた見直しを園都度行っている。	本人・家族から面会の時、意見や希望を聴き取り、職員からの情報を収集して主治医の意見を参考にして、担当者会議を開き介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、状況に変化があった時は、その都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、水分・排泄等の身体状況や本人の日々の暮らしの様子を記録し、いつでも全ての職員が確認出来るようにしており、ケアに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医との医療連携によって、緊急時にも対応出来るように24時間体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしていけるように地域公民館・市役所・学校・地域ボランティア等の関係機関に働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医、地域の歯科、及び他科診療も受けられるよう家族と協力し通院介助を行っている。	本人・家族の希望を大切にして、利用前からのかかりつけ医が主治医になっている。協力医療機関からは2週間に1回、訪問診療があり、週に1回は看護師による健康管理の対応をしている。歯科や他科受診は家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置し、また連携医療機関の看護師との連携をとりながら、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために医師と話をする機械を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るように連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合にホームで提供できる範囲を見極めながら、連携医療機関と協力し支援を行っている。(本人・家族と相談をしながら)</p>	<p>契約書に看取りの指針が記載されて、医療行為になった時は、連携医療機関の協力を得て支援している。転医や介護療養施設の方で支援に取り組んでいる。重度化や終末期に状況が変化した時は、主治医が家族に説明して、事業所でできる最大の支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の連絡体制、いつでも主治医と連絡がとれる体制を整えている。緊急マニュアルを作成し、内容をスタッフ全員が熟知できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月の防災訓練、年2回の消防立会いの実践訓練を行っている。また、周辺地域の方々にも非難時の協力を依頼している。</p>	<p>消防署立ち合いの下、年2回、昼夜間想定して防災訓練を実施している。毎月自主訓練も行っている。スプリンクラー・通報装置の設置がある。コンセントの点検・避難経路・避難場所の確認・誘導の仕方等を行っている。防災設備は定期的に業者が点検している。地域の協力もお願いしている。備蓄は米・水・缶詰・レトルト食品・ガスコンロ等、準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>スタッフ会議や勉強会を通して、職員の意識向上と統一を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない接し方に努めている。</p>	<p>法人の勉強会が毎月あり、全職員出席して研修している。スタッフ会議でも接遇に関して勉強会を行い、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。入浴介助・排泄・トイレ誘導等、個々に応じた言葉かけや対応に気配りしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者それぞれに合わせたアプローチで本人の意思の表出を促し、コミュニケーションを図り自分で決めたり納得しながら生活出来るように支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の日々の健康状態やその日の気分を大切にし、食事や入浴時間をずらしたり散歩や画尾出の支援を行う等、本人のペースに合わせた支援に努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>出来るだけ本人に行ってもらい、支援が必要な部分を手伝うようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>それぞれの利用者に合わせて、食べやすいようにメニューや食事形態を工夫している。誕生日には本人の希望するメニューを取り入れている。</p>	<p>栄養士によるカロリー・摂取量等、配慮のある献立を作成している。ミキサー食・とろみ・きざみ食、形態や嗜好も個々に合わせている。補食の気遣いもある。行事食は楽しみの一つであり、おせち・ひな祭り・花見・敬老会・そうめん流し等、外食にも対応している。もやしの根切り・テーブル拭き・下膳等、きることは職員と一緒にやっている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が栄養バランスを考えて作った献立で食事を提供し、食事や水分量は職員が情報を共有し、毎日の記録を確認しながら目標に達成するように促している。（補食の提供あり）</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きのこえ掛けを行い、個々の状態に応じて出来る所は本人にやってもらい、不完全な部分を介助している。就寝時には義歯洗浄を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導しトイレで排泄できるように努めている。	排泄をチェックし、個々のパターンを把握し、声かけ誘導している。トイレでの排泄を支援して、オムツの軽減に努めている。見守りだけで自立してトイレでの排泄やリハビリパンツから布パンツに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量に注意し、適度に体を動かす機会を設けている。出来るだけ下剤に頼らず、自然に排泄できるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎朝健康状態を把握し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。	入浴は週3回を目安にして、時間帯は柔軟に対応している。シャワー浴や足浴も行っている。入浴を拒む利用者には、無理強いせず、気分任せたり、翌日に変更して個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を崩さず安心して気持ちよく休息出来たり、眠れるように支援している。また、居室の環境作りにも留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の添付書を個人記録にファイルし薬の内容を把握して、服薬の支援が出来るようにしている。また、状況の変化の確認に努めている。服薬チェック表を活用し飲み忘れ防止に活用。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれのやりたいこと、できる事を把握し役割を持って楽しく過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望により、週2~3回のリハビリや散歩に出掛けるようにしている。	日常的には、希望にそって、公園の散歩や買い物・リハビリに出かけている。地域の行事の運動会や六月灯に参加したり、年間計画をたて、そうめん流し・花見・都市農園公園等に家族の協力を得ながら外出している。外食にも行くこともあり、外出支援の機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かりホームで管理している利用者に、預かっていることを伝え、外出時等に使える安心感を持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人からの電話を受け、自室で話ができるようにしている。また、ホームに設置している公衆電話を活用したり、手紙のやり取りを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にフロア内を飾りつけたりして季節感を感じられるようにしている。カーテン等で光の調整を行ったり、不快な音を立てないように配慮している。	フロアは明るく温度・湿度・換気に配慮し、加湿器の設置もあり、カーテンで採光も調整され、落ち着いた空間である。季節感のある作品や行事の写真を飾っている。テレビやソファも設置し、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルにそれぞれの座席がありフロアにソファを置くなどして、好きな場所でくつろげるようにしている。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望により家具や馴染みのものを置いて、その人らしい部屋作りをしている。	ベッド・ダンス・エアコンが設置してある。家から持ち込まれたテレビ・カレンダー・時計・家族写真・花等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを確認し、状態が変化した時にはその都度本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように試みている。	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない